

季刊 **みんな仲間** No.149

2011
5/1



〒610-0121 城陽市寺田垣内後69-1
TEL0774-55-5583

城陽障害児者生活労働センター“うおーく”
みんななかま作業所

メールアドレス mnakama@khaki.plala.or.jp

〒610-0102 城陽市久世下大谷6-291 TEL0774-56-0073 みんな仲間教室

大バザーへの ご支援・ご協力 ありがとうございました



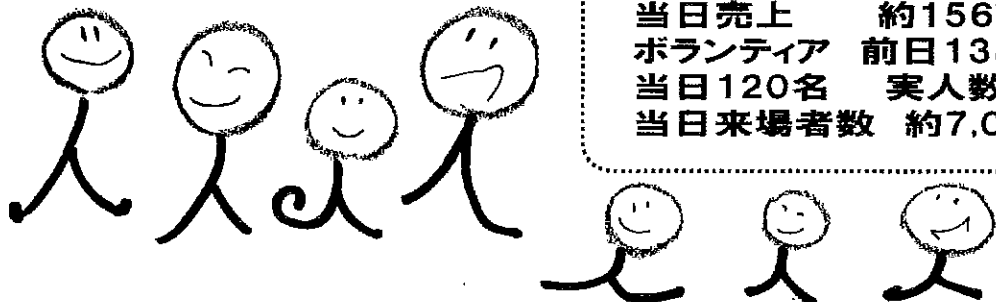
3月21日に行なわれた“春を呼ぶみんななかま大バザー”におきましては、城陽市をはじめとする各関係機関や市民の方々のご支援・ご協力のおかげで、大成功に終わることができました。どうもありがとうございました。

21回目となった今回、準備をすすめてきて、開催まであと10日となったとき、東日本を大地震が襲いました。地震と大津波によって、東日本は大変な状況になりました。ここ山城地域においても、数々のイベントが中止になっていく中、私達にできることは何なのだろう？と考えました。

ひとつは、被災地で障害のある方がたくさん困っているという事実を伝え、この地域で災害が起こったときに、こんな対応をしてほしいと訴えることでした。ピラを作り、たくさん訴えました。災害時に1人でも多くの命が助かることを信じて。もうひとつは、現在困っている被災地の方々のために、義援金を募ることでした。市民の方々の熱い気持ちが、僕たちにもしっかり伝わってきました。予想をはるかに上回る気持ちを預かることができました。

“被災地への支援”という点で、ボランティアの皆様方とお買い物に来ていただいたお客様と、私達スタッフが、会場内で一体となることができました。また、物品提供やポスター展示など、準備段階からお世話になった方々の気持ちも、ひしひしと感ずることができました。本当に温かい気持ちになれるひと時でした。今回の大バザーに関わってくださった皆様方、ありがとうございました。今後とも、温かいご支援・力強いご協力をお願いします。最後になりましたが、今回集めさせていただいた義援金と、売上金の一部は、城陽市社会福祉協議会やきょうされんを通じて、東日本大震災で被災された方々のもとに届けさせていただきます。

当日売上	約156万円
ボランティア	前日138名
当日120名	実人数229名
当日来場者数	約7,000人



医療的ケアについて

現在、さくらんぼグループに1名、胃ろう・たん吸引・酸素経鼻投与といった医療的ケアを必要とする通所者がいます。主治医の了解を得た特定の職員が対応していますが、「みんなのいえ」「みんなのひろば」の児童利用者は数名いて、近い将来を見越しても、その必要性は高まっている状況にあります。

医療的ケアを必要とする人も、病院や入所施設と出て在宅さという国の方針に伴い、最近ようやく、医師や看護師以外の者が行うことも、法的に容認されるようになってきています。その前と以前から、ケアを必要とする人の発達を保障し、生活を豊かに広げていくために、ケアに対する理解を深め、携わる人を増やしていきたく訴える運動は、家族の方を中心に、地道に努力が継続されてきました。医療があっても、生きるためには必要は生活支援が必要です。

+みんなのいえでも、専属の看護師さんに関わってもらえるようにはなっています。今後もしかり位置がいてもらうための人件費という財政的基盤については、行政の支援を求めざるを得ず、あらため課題に直面しています。前途多難ではありますが、「どんな障害を障壁と捉えても地域の中であたりまえに」という理念に立ち返りながら、大事は1歩を踏み出すことです。ご支援、ご協力またどうぞよろしくお願い致します。(文責か)

医療的ケアに日々かみびでいらっしゃる保護者の方に思いを綴って頂きました。

教室に通所してこられる頃から療育の進行と共に更に重度の病弱に把り医療的ケア不可欠の状態になりました。眼の通所しては毎時5時間の変わり受入れに下り従来の生活リズムと合わせて医療的ケアも真心中めて支援して頂いて苦しい中にも新しい取組を通い、笑顔に充ちた授けや日々の通所や復学、これ以上の幸せをこのこに送りたい。私共共々、元気で明るく帰るまで、何卒のお願いです。(文責か)

医療的ケアと向き合いつながらの生活も10年を過ぎました。吸引や経管栄養といったケアとごく自然に普通に繰り返す毎日です。しかし、吸引や注入は昼夜を問わず365日休みなく続けていかねばなりません。加えてここ数年娘の成長は著しく、健康であればこそ嬉しく思う反面介護の負担は増すばかりで、日々不安を感じながら生活しています。そんな中みんなのいえの皆さんが医療的ケアがあっても私達後に支援の手をさし出してくださり本当に感謝しています。取り巻く環境はまだまだ厳しいですが、いつまでも地域で家族と一緒に、という願いを込められる様々から頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。(加藤美穂・母)



今回のおたよりの発行が1ヶ月以上も延びてしまっている間に、
このような悲しいお知らせを添えねばならなくなってしまいました。



訃報

5月7日、大川未沙希さんが逝去されました。
また、大事な大事ななかまを失ってしまいました。
筋ジストロフィーという進行性の病気と闘いながら、
36歳までの命を本当に精一杯生き抜いた彼女。
「見て」と大きな瞳を輝かせ、笑顔いっぱい、
さくらんどグループの太陽のような存在でした。
教室のあちこちに面影がありすぎて、あまりに辛いです、
もっと生きたかった彼女の思いを胸に、
彼女が大好きでいてくれた教室であり続けねばと思っています。

心からご冥福をお祈りします。



ばちばち号長い間
ありがとう！



みんななかまの2台目の公用車として16年間活躍してくれたばちばち号の廃車がきまり、2月10日にみんなでお別れをしました。仲間教室がまだ南京都病院の敷地内に間借りさせて頂いていた時代に24時間テレビ「愛は地球を救う」から寄贈して頂いた車輛です。

車椅子が2台固定できるリフト付8人乗りのワゴン車。それまでは軽乗用車が1台しかなく、送迎も職員の車輛を使用し、遠出や社会学習の度に社会福祉協議会のやすらぎ号をお借りして取組んできたので、どんなにうれしかったかしれません。

名付け親は、開所当時の仲間のNさん。故森所長が寄贈の知らせをもうって教室に飛び込んで来た時、必要性を訴える作文を書いて申請に苦労していたこともあって、みんなに報告しながら思わず感涙。それを見てNさんが「なんで森ちゃん泣いてんの?」。職員が訳を話すと、「ばちばちやの」と手をたたいてくれたNさんにますますうれしさでいっぱいになって、即時、命名「ばちばち号」が誕生したのでした。

総走行距離は16万km。送迎はもちろんのこと、ダンボール回収やアルミ缶回収で仲間と一緒に働いてくれました。毎年行っていた奈良公園や生駒の夜景など遠出はあちこち。

大バザーでは大型家具を積み込んで……。思い出がいっぱいです。

本当に長い間ごろうさまでした。

ありがとう、ありがとう。

その後 車が更に必要となり、その名に続いて現在、計10台までになっています。
あらためてみんななかまの公用車を紹介させていただきます。



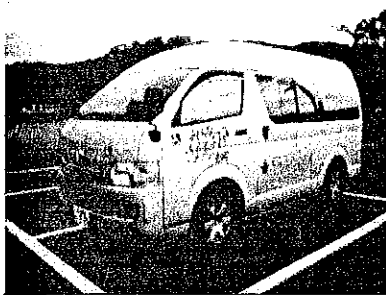
ぱち2 リフト付
日本財団より寄贈



ぱち3 リフト付
別の車両廃車により購入



ぱち4
後援会より寄贈



ひろば号 リフト付
生活支援事業の用途として
購入



しるぱち (シルバーぱちぱち)
京都馬主協会より寄贈



ぱちた (車名: シエンタ)
古谷静江さまよりご遺贈



奥にあるのが 軽トラ
補助金で購入。施設長の公用車？
手前にあるのが こぱち2 リフト付
小回りがきき、運転しやすい



こぱち
軽1 BOX



ぱち5
やってきました！ぱちぱち
の代りに日本財団より寄贈

職員一同安全運転を心がけ、走りますので今後とも、暖かく見守って下さい。

どうぞよろしくお願い致します。

(文責 土居)

なかまたち み～んなのこのごろ

さくらんどグループ

月日が経つのは早いもので、あっという間に一年が過ぎて行きました。新しい通所者が加わり、さらに賑やかとなったさくらんどグループ。今回は、そんなさくらんどグループの一年を振り返ってみたいと思います。

春には2泊3日の大旅行がありました。大阪のUSJにて、3D映像の迫力にはしゃぐNさんの姿が今でも印象的に残っています。夏に出かけた長岡京市にあるじゃぶじゃぶ池公園では、水遊びが大好きなMさんとYさんが夢中になって遊んでいました。秋にはスポーツ大会でOさんが見事な記録を残しました。冬に行ったクリスマス&忘年会。そこでは、Nさんと職員が一緒になって、素敵な歌声を披露してくれました。

それだけではありません。日々の活動の中でも、特に製品作りには力を入れてきました。主に縫製仕事を担当するMさんとWさんは、糸通し一つでも真剣な目を取り組んでいました。また、巾着袋やカードケースの刺繍を担当しているNさんは、コツコツと細かい作業を頑張ってくれています。YさんとKさんは、ハンコ押しや紙切り、キャンドル作りと様々な作業に取り組み大忙し。なかでも、キャンドルは色鮮やかでシンプルなものから、季節限定の可愛いものまで職員と一緒にたくさん作ってくれています。

仕事に散歩、おでかけ、調理ととても充実した一年を過ごすことが出来ました。通所者の皆と職員、ボランティアの方々が一緒になって活動することを大切に、そして集団の中でも一人ひとりが輝ける、そんなグループをこれからも目指していきたいです。今後も、さくらんどグループをよろしく願います！

最後になりましたが、前号でお願いさせて頂いた「タオル下さい」の呼びかけに、何人もの方が応えて下さって、おかげさまで沢山のタオルを頂戴することができました。同時に、ちゃんとおたよりを読んで下さっていることも、とても嬉しかったです。本当にありがとうございました。どのようなタオルが良いのか、説明不足で戸惑わせてしまい、すみません。旅館でもらうような薄手のものが一番ありがたいので、文字が入っていても、新品であれば色付きのものでも構いません。引き続きご提供頂けること、お待ちしております。頂いたタオルは、心を込めて雑巾に縫い上げ製品として販売しています。そちらの方も、ぜひどうぞよろしく願い致します。

文責：大田

ほっぶ

長かったような短かったような一年でしたが、様々な変化が見られた一年でもありました。一日の流れから振り返ってみます。

朝の会では、1人ひとりの作業内容の説明時に、その日の目標を具体的に相談して決めるようにしました。そして午前中は、その目標に向かって作業を進めていきました。調子の悪いときは目標数を少なめに設定したり、調子がいいときは、過去最高記録に挑戦してみたり、それぞれの体調と相談しながら頑張りました。また、見通しを持って作業できるように、表を使って仕事量を目に見える形で提示した人もいました。4月当初を振り返ってみると、仕事のこなせる量が全体的に増えました。

朝から仕事、昼から散歩のパターンを作ることで、しっかり一日の見通しを持って過ごせる人が増えました。その散歩の行き先は、車通りの少ない場所まで移動してから、のび

Amiグループ

あっという間に毎日が過ぎたように思う2010年度(そう思っているのは職員だけかも知れませんが…。(>_<))amiグループの様子を紹介したいと思います。

作業では、地域の方のご協力のおかげで、アルミ缶・ペットボトル・インクカートリッジをたくさん回収でき、リサイクル作業でたくさんの収入がありました。ありがとうございます。自主製品では、フェルト製品を中心に色々な販売会に出品させていただいたり、注文を頂いたりで製品の準備が間に合わないという嬉しい状況に！！販売での収入やアルミ缶などを納品した時に頂いたお金を、朝の会や終わりの会で報告することでみんなの気持ちがこの一年で変わってきたように思います。変わったなと特に感じる日が、お給料日です。通所者にお給料を順番に手渡すのですが、名前を呼ばれた時、「1ヶ月お疲れさま」と声をかけた瞬間のとっても嬉しそうな表情。上半期はあまり表情を変えなかった通所者が、今ではものすごくいい表情を見せてくれます。

療育での、月1回の創作活動もいい表情を見せてくれました。季節の壁画をみんなで作るのですが、自分から色塗りがしたいとクレヨンに手が伸びたり、職員がきつと工作は苦手だろうなと思っていた利用者が一番意欲的。話を聞いていないように見えるけれども、職員の簡単な説明をしっかりと聞いていて、一番に絵の具に取り掛かった利用者。「できた！」と職員に自分の作品を見せてくれた時の表情。「いいのが出来たネ」の声かけに、恥ずかしそうだけど達成感のある顔など、毎日の作業だけでは気づけなかっただろうと思う、みんなの良い所をたくさん知る事ができました。

バタバタと1日が過ぎていく毎日の中で、楽しい事ばかりではなく、個々にしんどいこともたくさんあったのですが、ここにあげたこと以外にもみんなの新しい一面をたくさん発見できた2010年度でした。

文責 寺島



のび歩くことを心がけました。車が来ない場所では、安心して自分のペースで走ったり、歩いたりできます。危険が少ないので、制止の声かけによるストレスがなく、心の開放を存分にできた人がいました。

最後は、一日の締めくくりとしての終わりの会。終わりの会では、朝の会でたてた目標に対する評価を主に行ないました。目標達成できた人には当然ハナマルを。目標達成できなかった人でも、目標に向かって頑張っていたからハナマルをあげるようにしていました。すると、目標達成できなかった人に対し、「がんばっていたからマルをあげよう」という声が、仲間同士から聞こえるようになりました。

これらの取り組みを通じて、何よりもグループ内で仲間意識が芽生えてきたことが、とてもうれしく感じた一年でした。これからも、同じグループ同士、仲良く作業などに取り組んで行きたいです。

(文責:浦田)

なかまたち み～んなのこのごろ

フレンドチーム

フレンドチームは新年を迎えて心機一転、今年も一年がんばろう！と日々活動していましたが、相変わらず小競り合いなどのトラブルが発生。それぞれの考えが合わないことがおおいので、嫌なことに目をむけるのではなく、逆にその人の「いいとこさがし」をしたら…、ということで、集まって話す場をもちました。

いざ始めてみると、言ってもらおう立場の人は、期待と不安でドキドキ…！言う方も、本人を目の前にして発言するのが恥ずかしくて、目がキョロキョロ泳ぎ気味に。でも、一人が口火を切ると、次々に「いいとこ」が出てきて、たちまち場が明るく盛り上がりだしました。ひとりが「いつも〇〇してくれてはるよ」と言うと、まわりのなかま達も「そうそう、毎日や！」と共感。ひとりが感じていたポイントは、みんなも共通して感じていることがほとんどでした。また、言われた本人も意識していない部分だったのに、見る人によっては長所に写ることもあって、「そういう考え方もあるんだなあ」と驚かされる発言もありました。思っていた以上に人のことをよく見ている、本質的なことを見抜いているように感じました。みんなの素直な発言は、見習う事が多いなあと思いました。

みんなそれぞれ苦手なこともあって、そこに目がいくとお互いしんどくなってしまうから、「いいとこ」を探しあって進んでいきたいなど。それでも、時にはもめごともあると思うけれど、お互いをできるだけ分かり合って、「フレンドチーム」の名のとおり仲の良い友達関係をつくっていこうと締めくくりました。少しずつ、みんな成長していきたいです。

文責：松本



THANK
YOU



11/26~2/25

☆ ボランティアにきてくださった方々☆ 服部 俊子様 寄本 陽子様 古谷 八重子様
栗山 幸子様 高橋 良子様 中嶋 清様 谷 房代様 榎 郷子様 渡辺 岳様
藤本 美代子様 布村 愛子様 田中 康子様 水谷 テル子様 藤田 輝子様 熊走 典子様
新宅 千恵子様 難波 律子様 三木 正治様 森藤 美智子様 大島 廣行様 吉田 万三様

☆ 寄付して下さった方々☆ 中谷 恵子様 小宮山 繁様 並川 理子様
越村 千恵子様 高橋 良子様 手島様 寺田校区社会福祉協議会様
久世社会福祉協議会様 芝が原自治会様 川井鍼灸院様 京都文教大学様
深谷小学校様 匿名様

☆ 製品を置いてくださっているお店☆

NIPPON DINING DIVE様 Rencontre様 Ra Baum様